

令和 6年 2月

牧嶋 惇 学位論文審査要旨

主 査 永 島 英 樹
副主査 吉 田 賢 史
同 藤 井 進 也

主論文

Efficacy of subtraction computed tomography arteriography during preoperative embolization in spinal tumors

(椎体腫瘍術前塞栓における動脈造影差分CTの有用性)

(著者：牧嶋惇、山本修一、矢田晋作、高杉昌平、鎌田裕司、谷島伸二、藤井進也)

令和 6年 Yonago Acta Medica doi: 10.33160/yam.2024.02.007

参考論文

1. 膵十二指腸動脈由来の後腹膜出血後に遅発性十二指腸狭窄を来し自然軽快した4例

(著者：牧嶋惇、橋本政幸、松木勉、水野憲治、大石正博、矢田晋作、高杉昌平、藤井進也)

令和 3年 日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 35号 350頁～354頁

審査結果の要旨

本研究は椎体腫瘍術前塞栓における動脈造影差分CT (s-CTA) の有用性について、正常脊椎と腫瘍の境界を明瞭度スコアを用いて4段階で評価し、動脈造影CT (ns-CTA) と比較して、その有用性を検討したものである。その結果、s-CTAはns-CTAと比較し有意に明瞭度スコアが高かった。また、術中出血量は先行研究と比べて少なく、s-CTAにより腫瘍部位の同定が容易になったことが寄与していると考えられた。本論文の内容は、椎体腫瘍術前塞栓を行う際の、s-CTAの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。